

Institute for Language Education  
Aichi University, Nagoya  
**Boken News**  
No. 25 July 2011



台湾の夏は、麦香紅茶で暑気払い：  
麦香紅茶は渋みが少なく、ほんのり麦の香りがする。  
土地神をまつる立派な廟の向かい、軽食の店「廟口紅茶」は24時間営業。(台湾花蓮)

CONTENTS

- |  |   |                   |    |
|--|---|-------------------|----|
| ・ D.H.ロレンスの作品に見られる赤色の意味について<br>(山田 晶子) .....     | 2 | 外国語コンテスト .....    | 13 |
| ・ 英語の辞書について (5) 和英辞典<br>(北尾 泰幸) .....            | 3 | ・ 英語部門            |    |
| ・ 洋書を楽しく読んだ先輩たちが紹介する<br>の洋書 (1)<br>(小坂 敦子) ..... | 7 | ・ ドイツ語部門          |    |
| ・ セキレイの心<br>(矢田 博士) .....                        | 9 | ・ フランス語部門         |    |
|  |   | ・ 中国語部門 (法・経営)    |    |
|  |   | ・ 中国語部門 (現中)      |    |
|  |   | ・ 韓国・朝鮮語部門        |    |
|  |   | ・ 日本語部門           |    |
|  |   | 外国語コンテスト入賞作 ..... | 18 |
|  |   | ・ 英語部門            |    |
|  |   | ・ 中国語部門           |    |
|  |   | ・ 韓国・朝鮮語部門        |    |
|  |   | ・ 日本語部門           |    |

## D.H.ロレンスの作品に見られる赤色の意味について

経営学部  
山田 晶子

### (1)

筆者は拙著『D.H.ロレンスの長編小説研究——黒い神を主題として——』（近代文芸社、2009年）において、ロレンスの作品に頻出する黒い (dark) 色の意味及び象徴を、同じように頻出する白色と対比させて論じた。この論点を学生のために分かりやすく簡単に述べると、ロレンスの作品では黒い色は、近・現代におけるキリスト教会及び機械文明社会の批判を表すものとして描写されていることが多く、批判される側のものを白色で表すことが多い一方で、批判者を黒色で表していることが特徴であると論じたものである。この黒色と白色の葛藤にはロレンス独自の女性と男性の関係が絡んできている。そして、西欧文明の発達においては、キリスト教に関わって白色が光を象徴することが多いため、闇を象徴する黒色は否定的に捉えられてきた。しかしロレンスは闇を善なるものとして描いたことによって独自の思想を唱導し、世界に衝撃を与え、生前において、また死後も30年ほどはイギリス文壇でも排斥される傾向にあった（勿論熱烈な彼の信奉者達は多くいた）が、1980年代に、ロンドンのウェストミンスター・アペイ内にある「偉大な文学者顕彰コーナー」(The Poets' Corner) にロレンスの記念碑が建てられて、現代の偉大な作家であることが公に承認されたのである。ここに至るまでには、本人のみならず大勢のロレンスを擁護する良心的な文学者たちと保守的な世間との裁判になるほどの格闘があった。

さて、本稿では、既存の価値批判としてロレンスが用いた黒色と同様に、彼の作品に描かれている赤色もまた、ロレンスが重視する「血と肉」を

象徴するものとして重要な色と思われることを書きたい。筆者はこのことも先に言及した拙著の中で述べているが、拙著は学術論文集であるため素人には難解と思われるので、今回は赤色を描写している主な場面について学生に分かりやすくまとめてみようと思う。

### (2)

先ず、初期の長編小説として重要な作品に1913年に出版された『息子と恋人』があるが、この小説の主人公であるポール・モレルは、キリスト教を信仰し精神的な生き方を重視するため性を嫌悪するミリアムという十代の女性に物足らず、人妻である30代のクララと性的な関係を持つ。彼女は性的に奔放でありポールの性的な欲求を満足させてくれる。このときクララは「赤い色」を特徴として描かれている。真紅の赤レンガ色のカーネーションを身に着けている彼女はポールに「道を歩く真っ赤な固まり」と思われ、2人が性交をした後、カーネーションの花が散って花びらが「赤い小さなしぶき」のよう、と描写されて赤い血にたとえられている。これはクララの血を連想させる。更にポールはクララとの性交によって「情熱的な一種の火の洗礼」を受けたと描写されているが、これはキリスト教の「水の洗礼」に対立するものであり、ポールはクララを介して「ある偉大な力」を知ったように思う。クララは彼に宇宙的な力の存在を教えてくれたのであり、ロレンスは性交の意味をここに見出している。一方で、ポールの母親やミリアムは「白いユリ」や「白い野バラ」と関連付けられており、キリスト教の白い光を重視する2人の性質を表している。ポールの母親のガートルードは熱烈なキリスト教徒である。夫のウォルターとは性格や受けた教育の違いから、結婚後に対立するようになる。夫婦げんかの後で夫に家の外へ追い出されたガートルードは、月光を浴びて輝く大きな白いユリの花に魅了されるが、花の中に手を突っ込んだ彼女は白いキリスト教の世界に吸い込まれたかのようなのである。白いユリは聖母マリアの象徴であり、ガートルードは聖母マリアと同じように処女懐胎をしたかのような印象を読者に与える。この場面は彼女がポールを孕んでいた時であったから。彼女と異なり、夫のウォルター

は黒い色と同様に赤い色もその特徴として描かれる男性である。血色の良い頬や赤い唇を持ち官能的な男性であるウォルターは、また、その官能的な生命の柔らかさが「ろうそくの炎」として描写されて、それは精神性を超えたものであると叙述されているように、ウォルターはロレンスがその存在を肯定している男性と思われる。

次に中期の長編小説である1920年出版の『アルヴァイナの墮落』では、主人公アルヴァイナの家庭教師として独身女性のフロスト先生が登場している。彼女は男を知らない女性であり、アルヴァイナが女性として発展することを妨害する存在として批判的に描かれている。フロスト先生は30代であって若いのに白髪が特徴である。そして彼女はアルヴァイナにキリスト教の美德を教え込もうとするが、成長するにつれて彼女はフロスト先生の教えから外れて行き、ジプシーの芸人の1人であるチッチョと結婚するのである。アルヴァイナがフロスト先生から離れる時期を、ロレンスは、エーデルワイスという白い花を捨てて黒紫色と赤色のアネモネの花が重視されるべき時である、と描写している。エーデルワイスは白髪が特徴のフロスト先生の花であり、赤いアネモネの花は、黒い肌色のグラハムを愛したり、助産婦になったりして中・上流階級のレディには相応しくない生き方をするアルヴァイナ、更には芸人と一緒になってイタリアの未知の世界へ消えてしまうアルヴァイナの花なのである。

今回は『息子と恋人』及び『アルヴァイナの墮落』の2作品を取り上げて白い色が表すキリスト教世界と機械文明の世界を批判する赤い色が表す「血と肉」の世界を紹介した。このように、赤い色は黒い色と同様に、ロレンスの世界では重要な色として捉えられるべきものである。それは精神性ばかりでなく肉體性を重視することを唱道した彼の思想を表す「血と肉」の色となって彼の作品の多くの場面で描写されている。

## 英語の辞書について (5) 和英辞典

法学部  
北尾 泰幸

### 1. はじめに

語研ニュースNo. 21より英語の辞書に関する連載を続けてきたが、今号でひとまず終わりにしたいと思う。最終回は和英辞典を取り上げる。

学生諸君の中には和英辞典の使用頻度が高く、英和辞典、英英辞典...と連載が続き、なぜ次は和英辞典を取り上げないのかと思った学生もいただろう。私としては、今まで取り上げた英和辞典・英英辞典・コロケーションに関する辞典・シソーラス、そして今回の和英辞典の中では、和英辞典の使用頻度がいちばん低ければ嬉しいと思っている。というのは、和英辞典を引くと、和英辞典を引くだけで終わりにするのではなく、その後で必ず英和辞典や英英辞典、そしてできればコロケーションに関する辞典、シソーラスを引いてほしいと思っているからである。これはどういうことを意味しているのか、説明しよう。

### 2. 和英辞典の引き方

「表現英語」の授業（新カリキュラムでは「Writing」）で英語のライティングを教えている。授業は「英語で考え、英語で書く」ことを目標にして進めているが、今まで英語を書いた経験が少ない学生もいるし、また日本語で書かれた文章を英語に直すのではなく、真っ白な紙に英語を書いていく、いわゆる「自由英作文」の形を取ることが多いので、やはり春学期のうちは日本語を介して英語を書く学生が多いようである。ただ、日本語を頭に浮かべながら書いている状態とはいえ、私は学生諸君は和英辞典を必要以上に引いてしまっているような気がしている。

## 2.1 語を引く前に、引こうとしている語について考える

まず学生諸君によく見られる傾向が、「日本語で浮かんでいる『概念』を英語で書いてみようとするのではなく、まさに考えている日本語を、『そのまま』英語に直そうとする」というものである。以前、授業で、学生から次のような質問があった。

「先生、『やきもきする』って英語で言いたいですけど、いくら辞書引いても載ってないんですけど...」

ええ、おそらく載っていないでしょう(笑)... と思って、いま後から紹介しようと思っている『研究社 新和英大辞典 第5版』(研究社)を引くと載っているのですが(笑)、中型の和英辞典の場合、載っていないことが多いと思う。さて、このとき「やきもきする」とはどういう状態なのか、考えてほしい。文脈にもよるが、「(思うとおりにいかず) いらいらする」とか、「心配でたまらない」といった意味だと思う。このように語について考えをめぐらしていくと、言い換えることができる日本語の単語が浮かんでくるだろう。そこで「いらいらする」や「心配する」という見出し語を使って和英辞典を引いてもいいが、おそらく学生諸君なら、和英辞典を引かずとも、「あっ!」と当てはまる英単語が浮かんでくるだろう。授業で私に質問した学生も、私が「やきもきするってどんな状態?」と聞くと、自分でこんな状態... と言っているうちに「あっ!」と言って英語を書き始めた。このことから分かるように、まるでインターネットの検索サイトに適当に語を打ち込んでウェブサイトを探すようなやり方で単語を見つけ出すのではなく、とにかく今あらわそうとしていくことがどのような様子なのかをしっかり考え、どうしても当てはまる単語が浮かんでこないときに、なるべく平易な日本語で言い換えて和英辞典で調べ、当該の語を探し出す(語の直観を得る、あるいは語の取っ掛かりを得る)という形を取ってほしいのである。

## 2.2 「和英辞典を引くと、手間が増える」(?)

もちろん、表そうとしている事柄に相当する単語が、日本語では浮かぶのだが、英語では何と言

うのか見当もつかないときには和英辞典は重宝するし、また和英辞典を引かざるを得ない状況もあると思う(もちろん、例えば「ほうれん草」を英語で何と言うか全く分からないときに、いくら頭をひねって考えても、ほうれん草に相当する英単語が出てくることはないだろう)。ただ学生諸君は、「引きっぱなし」の状態になってしまっていることがとても多い。

よくライティングの授業で、学生の皆さんに、「和英辞典を引いてもいいけど、手間が増えるぞ」と言う。初めのうちは学生諸君もきょんとしているが、だんだん私の意図が分かるようになってくれる。そしてそのうち、「和英よりはるかに英和を引くことが多くなってきた」と言ってくれる学生が増えてくる。こうなると、私は「しめしめ」といったところである。「引きっぱなし」ではなく、きちんと「調べて」くれていることが分かるからである。

さて、ここで私が言わんとしていることが分かるだろうか。「引きっぱなし」の引き方をしている例を挙げてみよう。

「との関係を切る」というような文を書きたいとする。「関係」は“relationship”だと分かっている、「切る」に相当する英語をどう言うか分からない場合、初めのうちは「切る」を和英辞典で引く学生が多い(本当なら、“relationship”が分かっているのなら、連載(3)で紹介したコロケーション辞典を引いてほしいのだが)。そこで、「切る」を引くと、たくさん単語が並んでいる。そこで、その「切る」がどのような文脈で使う「切る」なのかを吟味せず、「何となくよさげな単語」、あるいは「気に入った単語」を選び出して使ってしまうのである。すると、例えば次のような動詞句ができあがる。

- (1) a. \* chop a/the relationship
- b. \* hang up a/the relationship

ここで使われている動詞は、確かに(2a, b)のような形では「切る」という意味を表すが、“relationship”とは共に使われない語である。

- (2) a. chop a/the branch (枝を切る)

## b. hang up a/the phone (電話を切る)

よって、和英辞典を引いて語を選び出した後は、「必ず」その単語がいま書こうと思っている文脈で使える語なのか、英和辞典あるいは英英辞典で調べてほしいのである。英和辞典や英英辞典の語義だけではなく、例文をしっかりと見て、選び出した語のニュアンスを感じ取る作業を必ず行ってほしい。このように、「和英辞典を引くと、必ず英和辞典(英英辞典)を引く」ということを、肝に銘じて和英辞典を引いてほしい。つまり、「和英辞典を引くと、もれなく英和(英英)辞典がついてくる」ので、「手間が増える」のである。これからは、和英辞典だけを引いて、数多くの候補の中から気に入った語を選ぶのではなく、英和辞典・英英辞典(あるいはコロケーション辞典)を使って「語の絞り込み」を行ってほしいのである。そして、この「手間が増える」のを嫌がるのではなく、喜んでほしいのである。

## 3. 和英辞典について

和英辞典も数多く出版されており、それぞれ一長一短がある。今までの連載で挙げた辞書のように「この和英辞典が一番」というのは挙げにくい。というのは、上にも書いたように、和英辞典だけでは不十分なので、不十分な点を英和辞典や英英辞典で補ってほしいからである。

そこで、次の3つの和英辞典を、それぞれ別の角度から紹介したい。

渡邊敏郎、E.Skrzypczak、P.Snowden(編)  
(2003)『研究社 新和英大辞典 第5版』研究社

日本で出版されている和英辞典でいちばん分厚い類に入る。収録項目は48万項目。ありとあらゆる語が載っている。また編纂には英語の研究者だけでなく日本語の研究者も携っており、日本語もしっかり吟味したうえで、日本語の意味合いを存分に伝えられる英語にするように心掛けて編纂されている。第4版までは見出し語がローマ字で書かれていたが、この第5版からはかな表記になった。よって、学生諸君は引きやすくなったと思う。「英語の単語を探し当てる」のには優れた辞書で、

この辞書を引けば、たいていの語は見つけられると言っても過言ではないだろう(ただ、何度も言うように、見つけた後は必ず英和辞典・英英辞典で本当にその語が書こうとしている文脈に合った語であるかどうか確かめてほしい)。

小島義郎、竹林 滋、中尾啓介、増田秀夫(編)  
(2005)『ルミナス和英辞典 第2版』研究社

携帯できる中辞典である。和英辞典は上にも書いたように、語が並べられているだけで語法などについて記しているものは少ないが、この和英辞典は訳語を単に羅列するのではなく、それぞれの語がどういうニュアンスで使われるのか、日本語で少し説明がつけられている。例えば上に挙げた「切る」の場合でも、 の場合の「切る」はこの語ということが分かるような工夫が施されている(ただ、十分ではないので、英和辞典・英英辞典でダブルチェックしてほしい)。またコロケーションを意識した例文を挙げるようにしているので、学生諸君にとっては、書きたいと思っている例文が見つかることが多いかもしれない。和英辞典の中では、比較的「語法」を盛り込んだ辞書であり、単に語を並べているだけの辞書ではなく、「プラスα」を図った辞書と言えるかもしれない。

『英辞郎 第六版』アルク (2011年6月に第六版が発行される)

あらゆる語が載った辞書を作ろうという人たちで作るEDP(Electronic Dictionary Project)が改訂し続けている辞書である。CD-ROM版で発売されており、コンピュータにインストールして使う。アルクのホームページ(<http://www.alc.co.jp>)でも「英辞郎 on the WEB」を使うことができる。

ただ、この辞書は十分注意して使わなければならない。とにかくウェブサイトを含め、いろんなところから用例を集めてきているので、用例が間違っていたり、あるいは間違っていなくとも、あまり使われない言い方が載っていたりすることがよくある。検索サイトを使うがごとく、訳したい語を適当に日本語で打ち込むとそれらしい単語がヒットするので使い勝手はよいのだが、英語の語

感が優れていないうちは、他の和英辞典以上に、英和辞典や英英辞典での確認作業が必要になる。第六版は182万項目収録されるということで、確かに私もこれまでの旧版でも役立った経験が何度もあるが、十分注意して使っていただきたい。

#### 4. 和英辞典の編纂作業

少し話が逸れるかもしれないが、本稿の最後として、私は大学院生の時に、和英辞典の編纂作業(執筆作業)を間近で見たことがあり、そのときの話を少し書いてみたい。

現在は武庫川女子大学で教鞭を執っておられるが、当時、大阪大学大学院言語文化研究科で教えておられた Stephen Boyd (スティーブン・ボイド) 先生が、英語学や英文学研究者だけでなく国語学・国文学研究者やその他の分野の研究者とともに分担して、上記の『研究社 新和英大辞典 第5版』の執筆をしておられた(ちなみにボイド先生は、連載(3)で挙げた『新編 英和活用大辞典』の執筆もしておられる)。ボイド先生はイギリスのご出身で、日本に長期間住んでおられ、日本語の感覚も優れていらっしゃるのだが、辞書の場合、普段あまり使わないような語も見出し語として設定する必要が出てくるし、また先生は語の細かいニュアンスをしっかりと理解したうえで英語の訳をつけたいというお気持ちがあり、先生の研究室に行くと、よく「はこういう意味でいいだろうか」と、執筆中の項目についてそのニュアンスを私に聞いてこられた。細部までしっかりと考えておられ、またなるべく日常で使う言い回しや例文を挙げたいというお気持ちが強く、推敲を重ね、何度も書き直しておられた。この辞書は前回の第4版の発行から約30年経っており、みんなが新しい版の出版を待ち焦がれていた本である。「早く出版されてほしい」という気持ちと、間近で見ていることもあり「焦らずに取り組んでいただきたい」という相半ばした気持ちで執筆の作業を見せていただいていた。先生が書いたものがいつもそのまま採用されるというわけではなく、他の執筆者からの意見を受け、更に推敲を重ねることもある。「辞書の執筆は本当にたいへんな作業だ…」と思った。

ちょっとした自慢になってしまうかもしれない

が(笑)、実は私がボイド先生の部屋で何気なくつぶやいた言葉から、日本の和英辞典で初めて項目として載った単語があるのである。それは、「別腹(べつばら)」である。「そういえば、よく『別腹』って日本語で言うんですけど、和英辞典ではどれを引いても載ってないんですよ…」と若かりし頃の私が言ったところ、それまで笑って話をしていた先生が、話をやめ、急いで編纂中の辞書の見出し語で「へ」のところを見て、「『別腹』はやはり挙げていない。」と言った後、研究室の本棚にある和英辞典を片っ端から引き始めた。私も何気にぼつりと言っただけなのだが、真剣に辞書を引く先生の姿を見て、私も先生の本棚にある辞書を引き始めたが、やはりどこにも載っていなかった。先生いわく、「『へ』の訳の作業はもう終わってしまっている」とのこと。だが、「どうしても入れたい」とおっしゃって、研究社に連絡を取り、何とか今から「へ」の項に「別腹」を入れることができないか交渉し、結果、「別腹」の見出しが晴れて和英辞典に載ることになった。ちなみに、『研究社 新和英大辞典 第5版』で、先生は次のように訳された。

#### (3) べつばら【別腹】

おなかいっぱいだけど、ケーキは～よ。

I'm full, but 「I could fit in [there should be room for] some cake.

これでもまだ日本語で言うところの「別腹」のニュアンスが伝えきれていないようで、先生はもうひとひねりしたいようであったが、英語ではこれ以上うまくは言えないとのことであった。確かに、英語の表現では「まだ入る余地がある」とか「何とか入れられるよ」という感じだが、日本語の「別腹」は「入る余地は本当はないけど、ケーキとなると話は別だ」という感じかもしれない。ただ、この英語の表現もなかなか面白く、パツとは出てこない言い方であろう。もしかしたら次の第6版が出るころにはさらに磨きがかかった訳になっているかもしれない、今から楽しみにしている。

ちなみに、この『研究社 新和英大辞典 第5版』以降は、和英辞典でも徐々に「別腹」が見出し語として取り上げられるようになってきた。例えば、

『ウィズダム和英辞典』(小西友七(編)、三省堂、2007年)なども「別腹」を取り上げている。

## 5. まとめ

今回は和英辞典を取り上げ、特に「和英辞典の使い方」について説明した。和英辞典を使ってはいけないというのではなく、より効果的に和英辞典を使うために、和英辞典を使った後は、必ず英和辞典あるいは英英辞典で、調べた語が文脈に合致するものかを確かめるとともに、語法を確かめていただきたい。「和英辞典を引いたら英和辞典(英英辞典)」を常に頭の片隅に置いて英語を書いていたいただきたい。

これまで5回にわたり英語の辞書の連載を行ってきたが、楽しんでいただけただろうか。もしかしたら最も楽しんでいたのは原稿を書いている本人だったかもしれないが(笑)、学生諸君の英語学習の一助になれば幸いである。実は辞書好きの私はまだいろいろと書きたいことがあるのだが、また授業でお話できる機会があればと思う。

ら、読みやすく、かつ大人も楽しめる児童書の洋書から、お気に入りの作家、おススメの本やシリーズの紹介をお届けします。

まずは、ケイト・ディカミロという作家の作品に出会って、「英語であっても、日本語で読んでいるように話が頭に残るようになったし、物語を楽しみながら読むことができるようになりました」という森さんが、ケイト・ディカミロの魅力を語ります。森さんは、在学中、数十~二、三百ページ程度の洋書を何冊も読破していた一人です。次は、いろいろなジャンルの、数多くの作家の英語の児童書や絵本をどんどん読んでいた上田さんが、今年の干支にちなんで、著者の発想に思わずくすくす笑える *Bunnacula* を選んでくれました。最後は、絵やイラストが好きで、お気に入りの作家が何人もいる村瀬さんが、英語が苦手な人にもおススメできるという、イラストも個性的な魔法のシリーズ物の登場です。村瀬さんはこのシリーズは7冊ぐらい読了です。

今後いろいろな洋書を紹介していきたいと思いますので、お楽しみに！ (小坂)

ケイト・ディカミロ (Kate DiCamillo)  
2010年度経営学部卒業生 森彩乃

私が最初に読んだケイト・ディカミロの作品は *Because of Winn-Dixie*<sup>1</sup> です。これは、引っ越しで新しい土地にやってきた女の子とスーパーに迷い込んだ犬の話です。この本を小坂先生から紹介していただいた理由は、私が犬好きだから。長めの物語ではありましたが、主人公といつも行動を共にする犬が登場するので、時間はかかりましたが、最後まで読むことができました。この話は、子供向けということもあって単語もそれほど難しくなく、行間も広いし、文字も大きめなので読みやすいと思います。「これから長編にも挑戦していこうという人」にオススメです。

私がケイト・ディカミロに出会ったのはこれが最初ですが、彼女はこのほかにも魅力ある動物が登場する作品を多く書いています。私が読むことが出来たのは彼女の作品の中のほんの一部ですが、それぞれに魅力があり、毎回楽しく読むことができました。

## 洋書を楽しんだ先輩たちが紹介する の洋書 (1)

~短編から中編の児童書や絵本を中心に~

2010年度 経営学部卒業生

森彩乃、上田瑛里、村瀬晶子

法学部

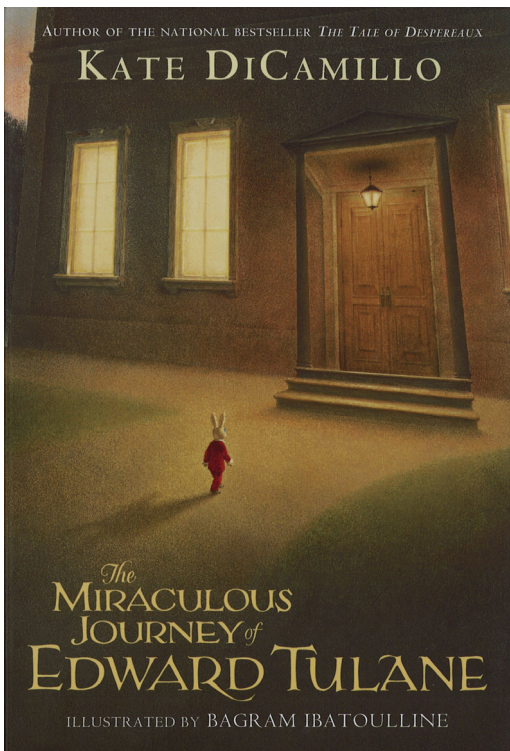
小坂 敦子

洋書を読むのも大好きな私は、電車の中で読んでいるうちに、すっかりひきこまれて乗り過ぎてしまったり、寝る前に少しだけ読もうと思いつつも、「もう1章」、「もう1章」と思っているうちに寝不足になってしまったりします。

今日は、洋書を読むのを楽しんでいた先輩達が

*Mercy Watson*<sup>2</sup>シリーズは、スミス家の飼いブタが主人公の絵本で、絵もかわいい。中には賞を獲得した作品もあります。スミスさんのポジティブさにも笑える、いい作品だと思います。ですが、なぜスミスさんがブタを飼おうと思ったのかは謎です。

次に *The Tale of Despereaux*<sup>3</sup>。これは、お城の中で生まれた小さなネズミの冒険を描いた話です。とても長い作品で、読み切るのにとっても苦勞しました。分からない単語が多かったり、途中で話が分からなくなってしまったり……。それでも読み切ることができたのは、ストーリーが魅力的で、小さな体で一途に頑張るネズミがかわいいからだと思います。これは、多くの人にオススメできるものではないですが、ファンタジーが好きな人は、挑戦してみるのもいいと思います。最後に近づくほど、バラバラだった話が一つに繋がっていくので、パズルがはまっていくような爽快感があります。



そして、もう一冊。私が一番好きな小説が *The Miraculous Journey of Edward Tulane*<sup>4</sup>です。こ

れは、うさぎの人形・エドワードが、様々な境遇で、様々な国に住んでいる人たちの手を借りて旅をする話です。ファンタジーのようですが、エドワードは話しません。もちろん、自分から動くこともないですが、頭の中で多くを考え、多くの持ち主に愛され、別れを悲しみます。その気持ちは人間のもので少しも違いません。この小説は日本語訳も出ていて、タイトルは『愛をみつけたうさぎ』<sup>5</sup>です。原題からは想像も出来ない訳ですが、物語を読んでいけば、このタイトルにも納得できます。この物語も、児童書に分類されます。それでも、大人が読んで感動できるし、涙を流すことができる作品だと思います。日本語でもかまわないので、ぜひ多くの人に読んで欲しい物語です。

私は、ケイト・ディカミロの作品に出会うまで、ただひたすら本を読んでいるだけでした。しかし、彼女の作品に出会って、英語であっても、日本語で読んでいるように話が頭に残るようになったし、物語を楽しみながら読むことができるようになりました。

短い絵本ではなくて、何か物語を読みたい。そういう人にオススメの作家だと思います。

*The Vampire Bunny*<sup>6</sup>  
*Bunnica and Friends* シリーズより  
 2010年度経営学部卒業生 上田瑛里

今年の干支である卯年に因んで、少し変わったウサギの絵本について紹介します。それは、James Howe 著の *Bunnica* (パニキュラ) シリーズです。パニキュラとは、bunny と Dracula を合わせたもので、つまりウサギの吸血鬼なのです。しかし、普通の吸血鬼と違って血を吸わない代わりに、野菜の汁を吸って生きています。

とても平和で可愛い生き物だと思いませんか？

ですが、何もしゃべらず、昼間は寝てばかり、飼い主のモンロー一家が眠りにつくと、活動的に野菜の汁を吸うパニキュラは、同じペットの Chester (猫) と Harold (犬) に警戒されてしまいます。特に Chester の警戒心とパニキュラに対する想像力は、読んでいて面白いです。

この本以外にも様々なジャンルの絵本があるの



で、きっと気に入るものが見つかると思います。興味があれば、ぜひ *Bunnacula and Friends* シリーズを読んでみてください。

*Winnie the Witch* シリーズ<sup>7</sup>  
2010年度経営学部卒業生 村瀬晶子

私はもともと英語に苦手意識がありましたが、英語の絵本のかわいらしい絵柄の表紙に惹かれて手にとったのが Valerie Thomas 著の *Winnie the Witch* という絵本でした。

らくがき風の絵はとてもユニークで、見ているだけで愉快的な気持ちにさせてくれました。すべてのページが絵で埋められているので、英語が苦手な私でもその挿絵を頼りにどんどん読み進めることができました。魔法のウィニーのへんてこな魔法とそれに巻き込まれる飼い猫のドタバタ劇が繰り広げられていて、毎回どんな魔法が出てくるのか、何が起こるのか、わくわくさせてくれる絵本です。ウィニー達の魔法の世界や飼い猫との友情など、難しいテーマではなく、楽しく気軽に読めるので、英語が苦手だと感じている人にもおすすめしたいです。シリーズ化されているこの絵本ですが、どの巻もカラフルでユニークな絵、わくわくできる魔法であふれています。一冊読んでみると、きっと次々読んでみたくなると思います。

(以下、本文中に登場した本の挿絵画家、出版社、出版年などを記しておきます)

- 1 Cambridge, MA: Candlewick Press, 2000.
- 2 これはシリーズ物で *Mercy Watson to the Rescue* (illustrated by Chris van Dusen, Cambridge, MA: Candlewick Press, 2005) など数冊が出版されています。
- 3 Illustrated by Timothy Basil Ering, Cambridge, MA: Candlewick Press, 2003.
- 4 Illustrated by Bagram Ibatoulline, Cambridge, MA: Candlewick Press, 2006.
- 5 バグラム・イバトーリーン絵、子安亜弥訳、ポプラ社、2006年
- 6 Illustrated by Jeff Mack, New York: Aladdin, 2005.
- 7 Illustrated by Korky Paul, New York: HarperCollins, 2007. なお、このシリーズで10冊以上が出版されています。

## セキレイの心

経営学部  
矢田 博士

### 一、はじめに

愛知県日進市を流れる岩崎川と天白川の土手の上の道を歩いていると、カモやサギ、カワウやシギ、ヨシキリやセキレイ、キジやカワセミなど、様々な野鳥を目にすることができる。

筆者はかつて「岩崎川のカワセミ」(本誌23号、2010年7月、所掲)と題する拙文において、岩崎川でカワセミの姿を目撃したのを機に、カワセミを詠った中国の古典詩歌について紹介した。本稿では、セキレイを詠った詩を取り上げてみたい。

### 二、セキレイの生態および習性

その前に、セキレイの生態および習性について、中国の古典文献を基に整理しておきたい。まずはその外見的特徴について、三国・呉の陸璣の『毛詩草木鳥獸虫魚疏』巻下「脊令在原」の条に、以下のように言う。

脊令、大如鵓雀、長脚長尾尖喙、背上青灰色、腹下白、頸下黒、如連銭。

[鵓雀は、鵓雀(小鳥の一種)ほどの大きさで、長い足に長い尾、尖った嘴を備え、背中中は青みかかった灰色で、腹側は白色、首の下は黒色で、銭を連ねたような模様がある。]

セキレイは、体長20cmほどのスズメ目セキレイ科に属する鳥で、川の土手のくぼみや河原の石の間などに巣を作り、トビケラやカワゲラなどの水辺の昆虫を餌とする。たくさんの種類があるなか

で、日本で目にすることができるのは、背中が黒いセグロセキレイと腹側が黄色いキセキレイ、それにハクセキレイの三種とされる。陸璣の言う「脊令」の外見的特徴は、ハクセキレイのそれに最も近いと言えよう。

次にその習性について、『詩経』小雅「常棣」の「脊令在原」句に対する毛伝（前漢の毛亨・毛萇が施した注釈）に、以下のように言う。

脊令、雝渠也。飛則鳴、行則揺。不能自舎耳。  
[鶉鴒は、雝渠のことである。飛べば鳴き、歩けば尾羽を揺らす。習性としてそれを止めることができないのである。]

確かに「チ・チーン、チ・チーン」と鳴きながら、そのリズムに合わせて上下に緩やかな波を打つかのように飛んでいく姿や、長い尾羽を上下に振りながら浅瀬や川原を歩く姿をよく見かける。とりわけ尾羽を上下に振るという行為は、セキレイを最も特徴づける習性と言ってよいであろう。ちなみに、筆者の娘は幼児のころ、セキレイを見れば「ちっば・ふるふるどり」と呼んでいた。

### 三、兄弟の情愛の象徴

中国ではセキレイは、中国最古の詩集である『詩経』の中で早くもその姿を現す。周の王室や諸侯の宴会用または儀式用の歌謡を収めた小雅のうちの、兄弟の親睦をテーマとする「常棣」と題する詩の一節に、以下のように詠われている。

脊令在原 脊令 原に在り  
兄弟急難 兄弟 急難あり  
每有良朋 良朋有りと毎も  
況也永嘆 況ち永く嘆くのみ

《鶉鴒がいつもいるはずの水辺ではなく原野にいて、助けを求めて鳴きながら飛んでいる。兄弟が急な災難に見舞われたならば、良い友人がいたとしても、なかなか兄弟のように助け合うまでには至らず、ただなすすべもなく長く嘆息するだけだ。》

古い詩ゆえに難解であるが、鄭箋（後漢の鄭玄

が施した注釈）を参考に、上記のように解釈してみた。ちなみに、鄭箋には以下のように言う。

雝渠、水鳥。而今在原、失常処。則飛則鳴、求其類天性也。猶兄弟之於急難。当急難之時、雖有善同門來、茲對之長嘆而已。

【雝渠（セキレイ）は、水辺の鳥である。にもかかわらず、いま原野にいるというのは、本来の居場所を失ったことを意味する。飛んでは鳴き、鳴いては飛んで、その仲間を求めるのは天性によるものである。それはまるで急な災難に遭った者が兄弟に救いを求めるようなものである。急な災難に遭った時には、同門のよき友が駆けつけてくれたとしても、ただ心配そうに相対しては長く嘆くばかりである。]

以上、『詩経』小雅「常棣」におけるセキレイは、兄弟の情愛の深さを象徴するものとして詠まれていることが確認されるのである。

### 四、共に鶉鴒の心あり

ところで、カワセミの場合は、その最も特徴的な習性と言える「水中めがけて急降下し魚を捕まえる捕食行為」が詩にしばしば詠われていた<sup>(1)</sup>ところが、セキレイの場合は、意外にも「長い尾羽を上下に振る」というその最も特徴的な習性を詠った詩は至って少なく、漢代から唐代までの詩の例で言えば、南朝梁の劉孝綽の「校書秘書省対雪詠懷 [書を秘書省に校ぶ 雪に対して懐いを詠う]」詩に、以下の例が確認されるのみである。

鶉鴒揺羽至 鶉鴒 羽を揺らして至り  
鶉鴒拂翅歸 鶉鴒 翅を拂いて歸る  
《鶉鴒が尾羽を揺らしながらやって来て、鶉鴒（カラスの一種）が翼を振り動かして帰っていく。》

では、中国の古典詩歌の中で、セキレイはどのように詠われているのかといえば、明らかに『詩経』の影響力によるものであろう、兄弟の情愛を象徴するものとして詠われている例が圧倒的に多いようである。とりわけ唐代においては、その傾

向が顕著に認められる。

例えば、宋之問の「別之望後独宿藍田山莊 [之望に別れし後、独り藍田の山莊に宿る]」詩では、兄弟の関係にある宋之望との別れを嘆いて、

鵲鴒有旧曲 鵲鴒に旧曲有り  
調苦不成歌 調べは苦にして歌を成さず  
自歎兄弟少 自ら歎く 兄弟の少くるを  
常嗟離別多 常に嗟く 離別の多きを

《古い曲の歌詞に鵲鴒を詠ったものがあるが、調べが辛すぎて歌にならない。兄弟の一人が欠けてしまったことを嘆き、とかく別れの多い人の世の習いをいつも悲しく思うのだ。》

と詠い、王維の「靈雲池送従弟 [靈雲池にて従弟を送る]」詩では、旅立つ従弟を「鵲鴒」になぞらえて、以下のように詠う。

自歎鵲鴒臨水別 自ら歎く 鵲鴒 水に臨みて別れ  
不同鴻雁向池来 鴻雁の池に向かいて来たるに同じからざるを  
《池にやって来るカリとは異なり、セキレイが池の水に臨んで別れを告げようとしているのが悲しくてならない。》

また、孟浩然の「洗然弟竹亭 [洗然弟の竹亭]」詩では、弟の孟浩然との兄弟の情愛を「鵲鴒の心」と表現して、

俱懷鴻鵠志 俱に鴻鵠の志を懐き  
共有鵲鴒心 共に鵲鴒の心有り  
《我ら二人は、鴻鵠（大きな水鳥）のような大きな志をともに抱き、鵲鴒のように兄弟の急難を助け合う心をもとに持っているのだ。》

と詠い、杜甫の「得舎弟消息 [舎弟の消息を得たり] 二首」其の二では、遠方にいる弟との再会が困難なさまを、「客人の到来を告げるとされる烏鵲（カササギ）」と「兄弟の情愛の象徴とされる鵲鴒（セキレイ）」とを対にして、以下のように詠う。

浪伝烏鵲喜 浪りに伝う 烏鵲の喜ぶを  
深負鵲鴒詩 深く負く 鵲鴒の詩に  
《弟は会いに来ることもできないのに、私を喜ばせようと、カササギが嬉しそうに鳴いて客人の到来を知らせることでしょと手紙で伝えてきた。私の方も弟に会いに行くことができず、『詩経』に詠われているセキレイの心に深く背いているのだ。》

さらに、李群玉の「小弟隍南遊近書来 [小弟隍にて南のかた遊び、近ごろ書の来たる]」詩では、手紙とともに寄せてきた弟の詩を「鵲鴒の篇」と表現して、

吟爾鵲鴒篇 爾が鵲鴒の篇を吟じ  
中宵慰相憶 中宵 慰みて相い憶う  
《セキレイの心を託したおまえの詩を口ずさんでは、夜半にお前のことを懐かしみながら私の寂しい気持ちを慰めている。》

と詠い、趙防の「秋日寄弟 [秋日 弟に寄す]」詩でも、遠方にある弟を「鵲鴒」になぞらえて、以下のように詠っている。

鵲鴒今在遠 鵲鴒 今 遠きに在り  
年酒共誰斟 年酒 誰と共に斟まん  
《鵲鴒のような心を持ったおまえは、今は遠方にいる。新年を祝う酒は出来たが、いったい誰とともに酌み交わせばよいのだろうか。》

現存する唐代の詩の中で、鵲鴒を詠った詩は、以上の例を含めて全部で三十二例が確認される。そして、そのうちの二十四例までが、実に『詩経』小雅「常棣」を踏まえているのである。

## 五、おわりに

以上、セキレイは、中国の古典詩歌の中では、『詩経』小雅「常棣」に初めて詠われて以来、もっぱら兄弟の情愛を象徴するものとして詠われていることが確認できた。また、逆に「長い尾羽を上下に振る」というセキレイを最も特徴づける習性については、意外にも詩人たちの関心を惹きつけ

るものではなかったことが確認できた。

ところで日本では、セキレイは古くは『日本書紀』に登場する。その巻一「神代・上」に、以下のように言う。

遂将交合而不知其術。時有鶺鴒、飛来揺其首尾。二神見而学之、即得交道。

[遂に將に交合せんとするも、其の術を知らず。時に鶺鴒有り、飛来して其の首尾を揺らす。二神 見て之れに学び、即ち交道を得たり。]

「二神」とは、イザナギとイザナミの二人の神のこと。交合しようとしたものの、やり方が分からなかった二人の神は、まさしくセキレイの「長い尾羽を上下に振る」という習性を手がかりに、その方法を知り得たと言うのである。<sup>(2)</sup> かくして、二人の神は次々と洲を生み、今日の日本の国土を作りあげるのである。我々が今こうして日本という国に住んでいられるのも、その意味ではセキレイのお陰だとも言えるのである。

#### 【注】

- (1) 拙文「岩崎川のカワセミ」(本誌23号、2010年7月)を参照。
- (2) 『日本書紀』の「鶺鴒」は、「二ハクナブリ」と訓むとのことで、『日本書紀 上』(坂本太郎ほか校注、岩波書店、日本古典文学大系、一九六五年)の注には、「二ハは俄(には)かの語幹。クナは、尻の意。フリは、振る意。速く尾を振り動かす鳥の意。」とある。このようにセキレイは、日本ではやはり、その「長い尾羽を上下に振る」という習性の方に、より関心が寄せられたようで、「庭叩き」「石叩き」「岩叩き」とも呼ばれる。また、イザナギとイザナミの二人の神に交合の方法を教えたことから、「教え鳥」「恋教え鳥」「嫁ぎ教え鳥」などとも呼ばれる。

藤原定家の『拾遺愚草』上「十題百首・鳥」に、セキレイを詠った和歌が収められており、以下のように言う。「さらぬだに / しもがれはつる / くさのはを / まづうちはらふ / にはたたきかな」(そうでなくても、すっかり霜

枯れてしまった草の葉を、「庭叩き」の異名の通り、空から舞い降りるや、真っ先に尾羽でうち払うセキレイであることよ)。

また、セキレイは一年を通して見られる鳥であるが、「古来よりその姿態のすずやかさと水辺に多く見られることから」、俳句では秋の季語に分類されるようである(『新日本大歳時記 秋』講談社、一九九九年、「鶺鴒」の項、今井聖担当)。



岡元鳳纂輯『毛詩品物図攷』より

## 第16回 外国語コンテスト

### 英語部門

2010年12月2日(木)に、中央教室棟3階第1研修室において、第16回の英語部門コンテストが開催された。今回は15名の応募者があり、例年よりも多かった。課題は自作スピーチの発表であり、長さは500語以内である。

毎年興味深いテーマでの応募者が多く、今回の15名のテーマも‘Get Over Loneliness’, ‘Courage to Speak’, ‘What I Learned from Short-term Studying in Canada’, ‘Think about Japan from British Slow Life’, ‘How Japanese People See Homosexuality’, ‘More Valuable Thing Than Money’等々、个性的で中身が濃いものが多かったことは喜ばしい限りである。

評価は2人の外国人教員(今回は法学部のジョン・ハミルトン先生と国際コミュニケーション学部のアイバン・コスビー先生)が審査員として審査して下さった。評価はスピーチの内容、文法、発音、表現力を見て行われ、50点満点で採点される。審査員の先生方のコメントでは、全体としてレベルが高い内容であったとのことである。一方で気を付けることとしては、スピーチは聞き手との関係性が重視されるものであるから、聞き手の目を見て話すことが必要である、スマイルも大事である、ゆっくり話し、また声を大きく印象付けるように話すこと、同じ言葉を繰り返すと単調になるので気を付けること等々の点が挙げられた。その結果、1位には現代中国学部3年生の陳美霖さん(‘Enjoy Your Life’)が、2位には現代中国学部4年生の水野雄太さん(‘1st Step’)と、経営学部1年生の木村貴仁さん(‘My Dream’)の2人が選ばれ、3位には経営学部2年生の都築亮さん(‘Light Novel’)が選ばれた。おめでとうございます。

今回と同じく、次回も大勢の学生の応募を期待

している。

(山田晶子)

### ドイツ語部門

2010年度の名古屋語学教育研究室主催第16回外国語コンテスト・ドイツ語部門の本選が、2010年11月30日(火曜日)の午後4時40分より名古屋校舎中央教室棟3階にある第1研修室でおこなわれました。その結果を報告したいと思います。

今回の課題は、‘Eine billige Fete’(「安上がりなパーティ」という題名のA4で1ページ弱のものを選びました。内容は、ドイツの若者たち、とくに学生たちのにぎやかで楽しい集まりに伴うちょっとした混乱とそのゆかいな結末をあつかったものです。楽しいパーティを期待して集まった若者たちも、準備不足と手違いから空腹に苦しむこととなり、最後は結局レストランで食事をする羽目になり、予定と違って高くついてしまったという顛末を、ユーモアに満ちた文体で学生の様子を再現力豊かに書いたものです。

参加者にとってはじめてのテキストとなるため少し難しく思われたようです、それでも参加者は12名と、ドイツ語部門としてはかなりの人数が集まりました。

審査にあたったのは、ドイツ語の授業をお願いしている鶴田涼子先生と山尾涼先生、それから経営学部所属のドイツ語担当教員である私(島田了)の3人で、表現力と発音・アクセントの合計点で審査を行いました。

決して難易度は高くないテキストですが、授業であつかったものではないためそれなりの準備と練習が必要です。基本となる発音・アクセントの確かさはもちろんのこと、今回はユーモアのある文体を表現するための深い理解と技術、そして若者の生活をどれだけ身近に再現できるかといった能力が必要とされます。それでも参加者は各自で

熱心に練習に取り組んだ様子で、その完成度を高いレベルで競う結果になりました。参加者いずれも優劣つけがたく、残念ながらわずかの差で順位を決めざるを得ませんでした。結果は、第一位(優勝)滝藤寿士さん(07M3286)、第二位原田知沙さん(09J1244)、第三位和田亜由美さん(08M3631)となりました。

他の外国語に比べて履修者が多いとはいえドイツ語部門ですが、これだけ多くの参加者がいて、高いレベルで結果を出してくれたことに満足しています。

今回参加した学生だけでなく愛知大学でドイツ語を履修する学生の皆さんの関心や質の高さは常々大いに評価しています。法学部・経営学部といった社会科学系の学部を中心としたキャンパスのため、外国語の学習時間は決して多いものとはいえませんが、その環境も必ずしも満足のゆくものではないでしょう。それにもかかわらずドイツ語に積極的に取り組む学生がかなりの数で存在するということは、ドイツ語の担当教員として大変うれしく思います。

今年の春、私たちの生命を脅かす自然の暴力のすさまじさに多くの人が震えあがりました。そうして今日なお多くの人々が人間を脅かす絶望や無力感と懸命に戦っています。その困難な戦いのなかで、私たちの言葉はいったいどんな力を持ちうるのでしょうか。かつてドイツの詩人は歌いました、「澄んだ言葉は美しい行為を呼び起こす」と。今回明らかになったように私たちの日常生活は実に多くの危険や困難に取り囲まれています。その危険のなかで、私たちはささやかな幸せを守ってゆく覚悟を固めなければなりません。そのための美しい行為につながってゆく澄んだ言葉を見つけるために、私たちは日々の生活と同じだけ真剣に言葉に向かい合っていく必要があるでしょう。

最後になりましたが、今回も意欲的な学生の皆さん、語学教育研究室にかかわっている多くの教職員のみなさんのおかげで、このような意義のあるコンテストを続けることができましたことに、心よりお礼申し上げます。(島田 了)

## フランス語部門

2010年度のフランス語部門のコンテストは11月29日(月曜日)に名古屋校舎の中央教室棟3階の第1研修室にて16時40分から実施された。例年通り、国際コミュニケーション学部のラッセン先生に審査委員長を務めていただいた。名古屋校舎の学生としては初めて、ネイティブの先生に発音等を審査していただくことになった。気のせいか、出場する学生はもちろん、フロアに30人ほど集まってくれた学生たちも緊張しているようであった。今年度は11名の学生がコンテストに出場してくれた。内訳は3年生が1名、2年生が5名、1年生が5名であった。

今年も例年通り、予選と本選に分けて行い、課題の朗読を行った。今年は1年生と2年生以上で、課題を分けることにした。予選ではちょうどコンテストが行われている時期に授業で習っている箇所の朗読をすることにした。

今年は1年生がとてよく練習してきたので、予選では上級生の方が圧倒される形となった。エントリーした11人のうち、予選を勝ち抜いた3年生1名、2年生2名、1年生3名で決戦をおこなった。

決戦は他のフランス語教科書から、予選とほぼ同レベルと思われる部分を抜粋して実施した。1年生にとってはおおむね授業と同程度であったが、2年生以上にとってはやや難しかったようで、苦戦したようであるが、いずれも甲乙つけがたい接戦となった。慎重な審査の結果、入選者は以下のとおりである。

第1位 08M3595 上田 真唯

第2位 10J1380 鮎川 瑞絵

第3位 10J1093 皆川 昌潤

上田さんは落ち着いた話し振りと同時に、発音の誤りがほとんどない正確さが評価された。さすがに3年生の実力をいかんなく発揮した感があった。2位と3位を1年生が独占し、1年生のがんばりがよく現れていた。鮎川さんは1年生とは思えない正確な発音が評価され、皆川君もジャッジ上はほとんど遜色のない出来映えであった。ほんのわずかミスの数が多かっただけで、二人ともしっかり練習してきたことがうかがえた。入選を逃し

た2年生と1年生も決して大差の違いではなく、ほんのわずかの差であって、全員がよく勉強してきたことが伝わってきて、ラッセン先生も田川先生も私も大変心強く思った。

ここ数年の傾向として、1年生の活躍が目立つ。2年生以上の学生諸君にも一層の奮起を期待すると同時に、1年生の時の熱心さを忘れないように、コツコツと勉強を継続していれば、必ずフランス語を身につけることが出来ると付け加えておきたい。

なお、講評の最後にラッセン先生から2012年からは車道校舎で一緒に勉強することになるので、ぜひともラッセン先生の授業を受講して、さらにフランス語に磨きをかけて欲しいとの励ましがあった。(中尾 浩)

## 中国語部門 (法・経営)

「第16回外国語コンテスト中国語 (法学部・経営学部部門)」は2010年11月29日 (月) 午後4時50分より211教室にて行われました。三年生3名、二年生42名、一年生2名の合計47名の学生が参加しました。今回の課題も「課題文の朗読」で、基礎部門(「基礎」履修中の学生)と応用部門(「応用・発展・演習」履修中の学生)とに分けて実施しました。今回は新たな取り組みとして二つのことを試みてみました。一つは名古屋情報メディアセンターの協力のもと、参加者が Moodle にて課題文朗読の音声をダウンロードすることができるようにしました。その結果、今までのテープダビングと比べ、より使いやすく便利になり、学生たちの事前練習の機会が増えたものと思われます。もう一つは応用部門で本コンテストを実施して以来、はじめて中国語発音記号「ピンイン」がっていない文章による朗読コンテストを実施したことです。いうまでもなく、第二外国語の学生たちにとって、ピンインなしの長文の朗読は非常に難しいことですので、応募者がかなり減るのではないかという不安を抱きながらの決断でした。しかし結果は、予想に反して昨年の参加者54名と大差のない人数となり、安堵しました。

今回の課題文は、「子認父」というタイトルの中国の笑い話で、その内容は「大通りで交通事故

が発生した。周囲は通りがかりの人たちでびっしり囲まれた。ある野次馬根性旺盛の男が割り込んで中を見たいと思った。だが、あらん限りの力を尽くしても入って行けなかった。かれはハッとひらめき叫んだ。「どいてくれ！早くどいて！死んだのは僕の父親なんだよ」周りの人たちはかれに道をあけた。男は中に入り一目見るなり、穴があったら入りたくなかった。なんと、車にひかれて死んでいたのは、一匹の犬だった」というものでした。

応用部門では発音記号のピンインがついていなかったこともあり、会場はこれまでにない緊張感に包まれていました。深呼吸の音も何度も聞こえてきましたが、熱意ある参加者のおかげで、今回もレベルの高いコンテストとなりました。審査員は経営学部の矢田博士先生と法学部の鄭が担当しました。厳正な審査によって、次の入賞者が決まりました。

第1位	09J1344	朝倉 勇季
第2位	09M3178	児玉 直宏
第3位	08M3530	森本 梨華子

第1位に入賞した朝倉勇季さんは、きれいな発音で最後まで詰まることなく朗読文を流暢に暗唱しました。会場全員その素晴らしさに熱い拍手を送りました。第2位の児玉直宏さんは、正確な発音でスムーズに朗読をこなした点で高く評価されました。第3位に関しては決めるのが難しく、2名の候補者が選ばれ決定戦を再度行いました。その結果、森本梨華子さんが入賞しました。丁寧でスムーズな朗読という点が入賞に結びついたと思います。

今回のコンテストによって得られた経験と成果が今後に役立てられることを期待しています。

(鄭 高咏)

## 中国語部門 (現中)

第16回外国語コンテスト中国語部門 (現中) は、2010年11月24日 (水) 16:40から、課題部門10名、自由部門8名の合計18名が参加して行われました。審査は薛鳴先生、戴蓉先生、安部の3名で行いましたが、今回は昨年に比べ参加者が増え、審査員一同ほっとすると同時に、課題文暗唱部門(1年生のみ)、自由課題部門共にすばらしい発表が多

く、審査は昨年より更に難しくなり、大変苦労しました。最近、このコンテストへの関心が再び高まっており、学生諸君も自分の将来を考え、色々なことにチャレンジしようとしているのだと実感させられました。

課題部門は、「三只老鼠 (三匹のねずみ)」という文章を暗誦してもらいました。内容は、三匹のねずみが油壺の油を盗み食いしようとし、油壺が大きかったので、三匹で相談し、一匹がもう一匹の尻尾をくわえ、三匹がつながった状態で油壺の中に入り、交替で食べようとします。最初の一匹が食べ始めた時、上の二匹が疑心暗鬼となって約束を破り、結局みんな壺の中に落ちてしまったというお話です。出場者はこの寓話の意味をよく理解し、それぞれのねずみの自分勝手な考えを、単に暗唱するだけでなく、表情豊かに表現してくれました。

厳正な審査の結果、次の3名が入賞しました。

- 1位 10C8036 吉田 翔子
- 2位 10C8046 伊藤 栞
- 3位 10C8102 早瀬 尚吾

自由部門は8名の参加で、全体にレベルも高く、正に激戦で、審査員としても順位を付けるのに本当に苦労しました。その中で入賞したのは、次の3名です。

- 1位 08C8022 下地 江梨奈
- 2位 09C8112 竹田 瞳
- 3位 10C8161 花岡 啓介

1位の下地さんは、「我在北京卖T恤衫 (北京でTシャツを売る)」というテーマで、北京のイトーヨーカドーで実際にTシャツを売ったというインターンシップでの体験を基に、物を売ることの難しさと、何か問題に直面した時にその原因をしっかりと分析し、自分から積極的に問題解決に向けて行動することの大切さを、ユーモアも交え表情豊かに発表してくれました。2位の竹田さんは、「留学中の一件小事 (留学中のある出来事)」というテーマで、現地プログラムで天津に滞在していた時に起こった、日中間の過去の歴史が原因のちょっとしたトラブルから、外国語を学ぶ時に、単に言語だけでなくその国の歴史や文化等についても学ぶ必要があると実感したと、的確な中国語で話してくれました。3位の花岡君は、「我和漢語 (私

と中国語)」というテーマで、これまでどのようにして中国語を学んできたか、そしてその過程で発音の重要性に気づいたことなどを、自らの体験を基に具体的に話してくれましたが、中国語習得への熱い思いが伝わってくる発表でした。

(安部 悟)

## 韓国・朝鮮語部門

第16回外国語コンテスト「韓国・朝鮮語」部門の本選は、2010年11月30日に実施された。参加者は例年よりは少なく16名であったが、審査員2名(韓先生、常石)を交え熱戦が繰り広げられた。全員が実によく練習・準備しており質の高い発表が多く、そのため今回も選考には審査員2名は苦労したが、次の3名を入賞者とするに至った。

- |    |        |           |
|----|--------|-----------|
| 1位 | 和田 裕子  | 06 J 1377 |
| 2位 | 本山 由奈  | 10 C 8045 |
| 3位 | 中村 由希恵 | 07M3193   |

1位 和田裕子さんの発表は本紙にも掲載されているが、韓国語なので簡単な解説を添えておきたい。内容は姉妹校留学中に地方の友人の実家に招かれ、その母親や家族たちとともにキムチをつけるという体験談であるが、韓国では「キムジャン」と言って例年晩秋には数か月分のキムチをまとめて山のように作る文化がある。膨大な量のキムチ作りだけに一族や近所の人々まで女性たちが総出で集まり、まる一日をかけてキムチを作りながら楽しく語り合うという韓国における女性および家庭での国民的・民俗的文化でもある。こうした韓国の「キムジャン」文化を直接体験できたのも、留学していればこそ可能な体験だったと言える。和田さんの発表は、これを伝えている。

ところで外国語コンテストは今回で16回目をむかえ、同コンテストに発表者として参加した学生数だけでも1,500名をはるかに超える。しかし新校舎移転にともない今後のことが未定であるだけに、今回は一点だけを回想させていただきたい。それは最初期の「表彰式兼発表会」が生協食堂を借りて立食パーティー形式で行なわれ、丁度時期も合致してまるでクリスマス・パーティーの様相



を呈して盛大に行なわれていたという点である。今年の秋には第17回目のコンテストが開催されるが、例年以上にしっかりまとめたいという気になってしまう。  
(常石希望)

## 日本語部門

外国語コンテスト「日本語部門」は、日本語を母語としない者を対象に開かれています。毎年「留学生の見た日本」というテーマで、自らの体験を盛り込み、身近な出来事から意見や考えを述べるのが課題です。

法・経・現中三学部の1年次の留学生は、毎年全員このスピーチに取り組んでいます。60名近くにもなりますから1年生だけの予選を行います。予選は約20名ずつに分かれたクラスごとに行い、それぞれ3名の代表者が選ばれ、計9名が本選に進みました。2年次以上の留学生は、予選を経ず、直接本選に出場できますが、参加者は非常に少ない状態です。しかし、今回も昨年同様1名の参加者があり、ここに特筆したいと思います。今後も上級生諸君の参加を期待します。

2010年11月16日の本選では、10名の参加者が大勢の聴衆を前にスピーチを競い合いました。

審査は、日本語科目担当教員3名(架谷・鈴木・梅田)、学生審査員2名(留学生と日本人学生ともにスピーチ入賞経験者)、聴衆約50名の投票によって行い、以下3名が入賞しました。

- 1位 現代中国学部 10C8205 呉 思邈  
「勤勉な精神」
- 2位 現代中国学部 10C8204 翁 秀艶  
「日本の礼儀」
- 3位 現代中国学部 10C8188 顧 世権  
「伝えたい日本 探究精神」

(敬称略)

「留学生の見た日本」という単一のテーマですが、発表者はそれぞれ独自の着眼点から原稿を書き起こしました。おしゃれなカフェで読書する日本のお年寄り、マニュアル通り一色に染められる日本の就活学生...彼らが題材とする日本人は様々ですが、どれも現代日本社会の事実の一部を切り取ったものです。

スピーチの技術面においては、イントネーショ

ン、間の取り方、アイコンタクトなど、聴衆との言語的・非言語的コミュニケーションを各人よく意識していましたが、例年より控えめな印象が残りました。もっと大胆な演出で聴衆を感心させてほしいものです。次回はさらなる高みを目指してください。

ともあれ、コンテスト日本語部門に参加できない数多くの日本語を母語とする学生には、ぜひ一人の聴衆として留学生の声を聞きに来てほしいと思います。きっと新しい発見があるはずですよ。

(梅田康子)



## 外国語コンテスト入賞作



### 英語部門

#### 第1位 Enjoy your life!

08C8164 陳美霖

When I was a child, I wanted to grow up quickly so that I could do anything I wanted, just like any adults can. But now that I am an adult, I'm not really happy about it, in fact, I want to go back to my childhood days.

When I was younger, I wanted to go away from my hometown which is just a small one and I wanted to go out and explore a big city. Now I live in Nagoya, which is a big city, but I actually don't know whether I'm really happy about it.

Have you ever felt this feeling? Having that dream of yours but never feeling happy about it? At times, you don't even notice that a dream of yours has already come true, because you just can't feel satisfied about it... you still long for something.

Back when you were in high school, your dream was to go to a good university. Now that you are here, you want to graduate as soon as possible and find work at a good company. Finally, when you get the job which you've wanted for a long time, you consider it boring. And so what do you want to do next? Quit your job? Or continue it just for the money? Ask yourself. Are you holding your dream right now but you just can't get to appreciate it that much?

If you had one-million yen or more, how would you spend it? I think you have your answer for this question. Maybe you would like to travel around the world. Maybe you would like to quit the job you have right now and do anything you want. But as for me, I would share the money with someone who really needs it.

There are many people who are suffering from poverty, sickness, or other serious problems in this world. And the truth is, there are many people who will be very happy and grateful if you just give them one hundred yen, and they will never complain about it. There are also some people who would feel so lucky, if they got themselves a bicycle instead of a car, or a

telephone instead of an iPhone.

And so I tell this to myself, yes, we never get satisfied. But if we try to see how lucky we are, and compare ourselves with others who are not that fortunate, maybe we should take a look again at what we already have, and try to enjoy it, treasure it and be content with it, because if you feel content with your life, you will be happy and make others happy.

As a conclusion, I hope that you somehow can realize that the things that you have right now might be something that others really want to have, but they just can't get it. So don't let it slip away that easily. Let it make your life wonderful, and just enjoy every moment of happiness in your life!

### 中国語部門

#### 第1位 我在北京卖T恤衫

08C8022 下地江梨奈

今年暑假我参加了学校组织的中国现地企业实习。

我实习的企业是北京洋华堂西直门店。第一天，我练习了接待用语和领带的系法，觉得特别开心，然而事情并不那么容易。

我首先遇到了语言障碍。我以前认为自己的发音本来就比别人好，周围的人也常说：“你汉语好，肯定没问题！”然而，事实却恰恰相反。顾客说的话，要问好几遍才行，售货员说的话，由于有不少术语，也听不懂。我渐渐地失去了信心。

就在这个时候，我想起了去年在这里实习的先辈，他同样在这个卖场，卖了三件T恤衫，来之前我想，“才卖了三件!?”可是现在我佩服他了“一个人居然卖了三件!”当时的我，只卖了一件。即使就一件，我也觉得有了成绩，明天再接再厉。可是那以后，一件也没卖出去，我感到很焦急。怎样才能让顾客购买呢？我仔细地考虑对顾客服务的意义，悟出了一个道理：“售货员只有与顾客相互沟通才谈得上服务”。

于是，我开始朝着卖十件T恤衫的目标努力。有顾客来，我就主动迎上去，问他想要什么颜色和尺寸，陪他到镜子前面一起挑选，有时还向他介绍新款式。有选中的就跟他一起到收银台，顾客离开时我大声说：谢谢！欢迎您再来！经过这一番努力，我居然一天卖了十一件T恤衫！开始时我只是想

要超过先辈，没有动脑筋。后来我开始找原因想办法改善，并把它落实在了行动上。

通过这次实习，我懂得了在现地工作不是件容易的事。我现在的汉语水平还远远不够，我还需要更加努力学习，提高汉语水平。

我要朝着这个目标努力！

## 韓国・朝鮮語部門

### 第1位 留学中、友人宅でのキムチ作り

06J1377 和田裕子

제가 유학으로 갔을 때 겪은 경험 중에 하나로 친구 집에서 김장을 한 적이 있습니다. 아침 4시에 일어나서 수원 근처에 있는 친구 집으로 갔습니다. 너무 추웠지만 공기는 상쾌하고 하늘이 매우 청량한 날이었습니다. 친구 집에는 엄청난 배추들이 저를 반겨 주었습니다. 친구 어머님과 함께 배추를 자르고 무도 자르고 정말 한국의 김치를 만든다는 생각에 가슴이 두근두근 해졌습니다. 양념을 섞어서 배추 사이에 넣었습니다. 김치를 만들면서 친구 친척 아주머니들과 수다를 나누었습니다 일본에서는 체험 할 수 없는 신선한 체험의 연속이었습니다. 아주머니들과 이런저런 이야기를 나누었는데 한국은 일본과 정말 많은 부분이 닮았다고 생각하였습니다. 한국과 일본이 가깝고 먼나라라는 표현이 있습니다 어느 때에는 문화의 차이에 놀라고 의견이 엇갈리는 경우도 있습니다 그러나 마음과 마음이 통하여 친해질 때가 더 많습니다.

## 日本語部門

### 第1位 勤勉な精神

10C8205 呉 思遯

世界では、日本人の寿命が一番長いとよく知られています。それは、ただ海に囲まれて、暮らしやすい環境があるだけではなく、もっとも大きな原因は日本人が勤勉なことだと思います。

初めて日本に来た時、求人情報を見て、「高校生も大募集」と書いてあるのにびっくりさせられました。中国では、学生時代アルバイトをするチャンスがほとんどないです。両親は、義務のように子供の費用を負担します。学生は、勉強以外他の

ことをやる意識がないから、仕事の経験や社会性を身につけることができません。しかし、日本は中国と違います。高校生の時から、アルバイトができて、自分を鍛えられますし、両親も楽になります。これは一石二鳥だと思います。そして、生活をもっと充実させるために、私は日本に来て、勉強以外の時間にアルバイトをやり始めました。

仕事の時、高校生や高齢者も一生懸命働いていることがわかって、びっくりしました。定年後、生活を楽しむはずの年齢なのに、なぜゆっくりしないで一生懸命仕事をするかを考えました。それは、勤勉な精神を持っているからだと思いました。中国では、年をとったら働きません。年金をもらえない場合は、自分の子供に頼る人がたくさんいます。しかし、日本人は自分の家族でも負担をかけたくなくて、自立します。さて、中国の高校生も怠けて働きたくないわけではないと思います。中国の現状では、勉強しながらアルバイトをすることが不可能です。一方、日本ではアルバイトする環境を提供しています。それに興味を持ちました。

高校生の時から仕事に入れば、将来の自立や一人暮らしにも役に立つと思います。お客様とのコミュニケーションを通して、自分が礼儀正しくなるだけではなく、人につきあう力も高められます。これは学校や教科書の中で勉強できないものです。若いうちから何でも実践して、試して、自分を鍛えたほうがもっと成長できると思います。

そして、お年寄りも、アルバイトを通していろいろな人と付き合うことで、つまらない生活が豊かになると思います。毎日ゴロゴロしてストレスをためるのではなく、やることがあると、生きる方向が見つけられます。体も健康で精神的にも充実すれば、長生きができると思います。

勤勉な精神があれば、人々はどうなことに對しても積極的な態度でやります。莫大な財産でも、わずかな財産でも、人々の手で作られるものです。

私が見た日本は、勤勉な精神に包まれていました。だからこそ、世界の先進国になれたのだと思います。

それでは、私たちの国をもっと発展させて、人々の生活をもっと豊かにするために、何が一番大事ですか？もちろん、勤勉な精神です。

### 編集後記

『Goken News』第25号をお届けいたします。今号は例年通り、外国語コンテストの講評に加えて、4人の先生方から玉稿をいただきました。初めての試みとして、小坂先生には学生諸君の英語学習の取り組みを、自分自身の言葉で語ってもらう企画をまとめていただきました。『Goken News』がますます学生諸君にとって身近なものになればと思っています。北尾先生からは外国語学習にはどうしても欠かせない辞書の話のまとめにあたる原稿を海外研修先のボストンから寄稿していただき、矢田先生と山田先生からは紀要論文として投稿していただいてもよいほどの原稿をいただきました。

本誌が刊行されるほんの4か月ほど前に、戦後日本にとって最悪の災害が発生しました。岩手、宮城、福島を中心とする東北太平洋沿岸を襲った大地震と大津波、そしてその結果引き起こされた福島第一原発のメルトダウンは、まさしく大空襲と原爆投下にも比することのできる天災、人災であったと言えるでしょう。発生後半年近く経った今も、被災者への支援は十分ではなく、原発事故に至っては、見通しすら立たない状況です。

しかし、被災直後から海外メディアでも賞賛されたように、これほどの大災害に見舞われながら、自分自身より他人を気遣う日本人の心性、雄々しくも立ち向かっていこうとする姿勢は、被害を受けなかった我々の方が勇気を与えられたと感じました。復興には時間がかかると思います。しかし、日本人なら必ず立ち上がることができることができると確信していますし、そのためには継続的な支援、協力が必要であると同時に、今後、このような天災や人災被害が甚大なものにならないようにするために、勉強や研究をしっかりとする必要がありますと思いました。(N.H.)

### <お知らせ>

外国語コンテストを今年も年末に行います。詳細については11月頃にお知らせします。英語、中国語、韓国朝鮮語、ドイツ語、フランス語、日本語（留学生のみ）の各語系ごとに行いますが、英語と中国語といった複数の言語に出場してもかまいません。名古屋キャンパスで実施される記念すべき最後のコンテストです。皆さんの積極的な参加をお待ちしています。



クイズ：台湾最南端の茶園がある港口村の食堂。海が目の前なのでサーフボードもレンタルしているが、さて、どこに書いてあるでしょう。